

ほけんだよい

臨時特別号

中央小学校 保健室

～おうちのかたへ～ 一般的に春から夏にかけて流行するといわれている水ぼうそうですが、中央小学校では今、低学年を中心に小流行しています。感染している人からの飛沫感染や空気感染が主な原因で、水泡がつぶれたときのリンパ液からも感染します。発疹がすべてかさぶたになるまでは、出席停止となっています。

☆水ぼうそうの主な症状☆

潜伏期間は2～3週間。微熱が出ると同時に体のやわらかいところに発疹ができて、半日から1日で顔、口の中、胸、背中、手足から頭皮の中にまで、全身に広がります。直径2～5mmくらいの赤い斑点で、1～2日で中央に水ぼうができて、かゆみも出てきます。水ぼうは、はじめは透明で次第に中が白っぽく濁ってきて、1～2日過ぎると、乾いて黒っぽいかさぶたになります。

発疹を見つけたら、早めに受診しましょう！



*** そのほかに最近報告のあった感染症 ***

流行性角結膜炎は、医師により感染のおそれがないと認められるまで、登校できません。**溶連菌感染症**は医師から休むよう指示があった場合のみ出席停止になります。いずれの場合も、以下のような症状がみられたら、早めに医師の診察を受けるようにしてください。



流行性角結膜炎

<原因>

目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけでなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近では季節に関係なく発症する傾向がある。

<症状>

まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うことも。

<対応>

完治まで2～3週間かかり、発病から2週間は出席停止。感染予防のため、こまめに手を洗い、タオルの共有は避ける。

溶連菌感染症

<症状>

高熱が出ることもあり、のどのはれ、おう吐、頭痛などの症状が現れる。首のリンパ節がはれたり、筋肉痛や中耳炎を起こすことも。その後全身に小さな発疹が出たり、舌に白いこけ状のものがつき、3日くらいすると赤くブツブツしてくる(イチゴ舌)。発疹や舌のブツブツが出ず、のどが痛いだけのときもある。

<対応>

抗生物質で治療する。症状が治まったからといって独断で薬をやめたりしないこと。

